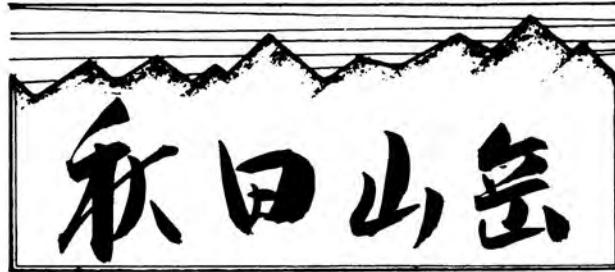


2014



平成26年8月発行

No. 94

社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市泉菅野
1-2-14 鈴木方

TEL・FAX 018 (823) 2708

発行者 今野昌雄

編集者 鈴木裕子

支部設立55周年記念山行

黒姫山 戸隠山 飯綱山 山行報告

佐藤 博

久々に、県外山行計画を担当した。支部設立五十五周年記念だから、国内で標高五十五番目の山の声もあり、調べたところ、静岡・長野県境の南アルプス・赤石岳と聖岳の中間に位置する大沢岳(二八一九m)であった。大沢登山口にある山小屋に問い合わせたら登山道は部分的に廃道、林道も崩壊して車が入れないとうことで断念した。

以前、支部山行で雨飾山等に登り、この次は黒姫山への声もあったことを思い出し、黒姫山(二〇五三m)、戸隠山(一九〇四m)、飯綱山(一九一七m)にした。

七月十九日(土)六時、御所野シルバニア集合。車三台で秋田空港インターから高速に乗り、温海しやりん道の駅やまほろば朝日等で休憩。関越道長岡ジャンクション付近から小雨となり、明日の天候が気になる。

信濃町インターで下車、黒姫山大橋登山口、戸隠牧場登山口を確認し、三日間お世話になる宿へ向かう。宿に着いた途端、激しい雨の歓迎を受け、車から降りることも出来なかった。荷物の整理後ミーティング。

雨も小降りになり、夕食時に明日の晴れを祈って地酒「戸隠」で乾杯。

二十日(日)、窓を開けると一面のガス。茅葺屋根から雨垂れが落ちてくる。

大橋登山口から七時三十分頃出発。登山道と並行して延びる林道を一時間

程進むと右手に登山道の矢印が見える。数回ほど林道を横切り、古池登山口からの登山道と合流し、「しなの木」の地点に着く。ここから急斜面を登り、稜線に着くと樹林の間から、ガスっているが、小黒姫山が見え隠れする。しらたま平を過ぎ、西登山口の分岐から十五分ほどで黒姫山山頂に着く。十一時四十五分。小雨がぱらつく。山頂にはハイマツに囲まれた石の上に小さな祠があった。天気が良ければ、北アルプスや富士山等の大展望が楽しめるはずだ。



黒姫山頂上

この三角点は標石が無く、平らな石に十字が刻んであるだけだった。

しらたま平で昼食。往路を新道分岐まで戻り、古池、種池と周り、古池登山口へ。途中、ヒラタケを見つけた。余禄もあり、趣味と実益の山登りだった。夕食時に宿から全員無事登頂のお祝酒を頂き、その心遣いがうれしかった。

二十一日(月)、今朝もガス。登山班と観光班に別れ、登山班は安全を第一に、戸隠牧場からの入山とし、宿の車で登山口まで送ってもらう。

牧場の舗装路から牧場に入り、大洞沢を渡る。樹林帯に入り帯岩バンドを横切り、不動の滝下部に出るとこの先が一杯清水。冷たい水が腸に滲みる。八時三十分、高妻山への分岐、一不動避難小屋着。ここから表山縦走路で、九頭龍山へきつい樹林の急坂を登る。

縦走路は、切り立った岩峰の縁を巻いている箇所が多く絶景だ。ガスが切れて東方に飯綱山、下方に奥社が断崖の登山道から見える。戸隠連峰の主峰・戸隠山十時五十五分着。



戸隠山頂上

ザックをデポし、八方睨まで。八方睨みの頂上は思ったより広かった。両側が絶壁の、蟻の塔渡りのナイフブリ

飯綱山頂上



参加者
佐々木民秀
福田光子
今野昌雄
鈴木裕子
佐藤 博
鎌田倫夫
石川祐子
佐々木長秀
藤田正義

ツジを渡る登山者が小さく見えていた。晴れていれば見えるはずの絶景は見ることが出来ない。
戸隠山に戻り、昼食を済ませせ往路を下山。九頭龍山の山頂を踏み、平らな石に十字を刻んだ三角点を確認。
登山途中に見つけたヒタタケを探り、無事に戸隠牧場に降りた。
観光班は、戸隠古道の杉並木を歩き、奥社まで。奥社から主峰を見上げ、登山組の安全祈願をしたとのこと。
二十二日(火)、西登山口から飯綱山へ。一直線に伸びる広い登山道を登り、萱の宮神社に着く。ここで参拝の作法を教わる。やがて、岩の急坂を啜ぎ啜ぎ登り、稜線に出て、神仏混合の飯綱神社に着く。ここから十分程で方位盤や祠のある広い山頂着。十時二十五分。下山は瑠璃(めのう)山(一七四八m)經由で下山。急斜面を鞍部まで下り、登り返して瑠璃山着。スキー場の牧草畑を下り、無事下山。
神告げ温泉で汗を流し、戸隠そばを楽しみ、帰路についた。参加者皆さんのご協力で無事に県外山行を終えることができ、感謝致します。

県内標高五十五番目の山に登る

鎌田倫夫

秋田支部設立五十五周年記念事業として総会で承認された、県内五十五番目の標高である横長根(二二〇〇m)登山を実施した。

七月三十一日(木)、集合場所の大仙市「大盛館」から五台の乗用車に分乗して出発し、途中で合流した今野支部長と参加者十八名で、登山口のある国見温泉へ向かった。天気予報は曇、雨が降らないことを祈る。

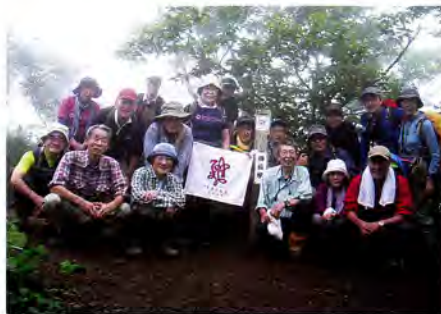
仙岩トンネルを過ぎて国道四十六号線から旧道に入ると、豪雪か豪雨か、道路が崩壊しているところが数か所あり、最後はブナの巨木が車道を塞いでいた。前夜か、今朝早くに、倒壊したもと思わる。参加者で協力して、片側通行出来るように倒木を寄せて処理した。この日、我々の前には車は通っていないようだ。

国見温泉登山口で準備をして、九時に出発。ガスが山にかかり、雨を心配しながら登り、一時間ほどで横長根の分岐に到着した。ここは標高一七五五mなので高度計を合わせた。

横長根の標柱があることで、記念写真。恒例の入山許可バナナが今野支部長から皆に配られた。いつもなら登山口で配られるのだが、ここまで背負ってきてくれたことに感謝。

下山してくる登山者に聞くとガスと強風のため途中で引き返したとのことである。ここからクルマユリなどの花々を楽

しみながら、少し登ると高度計が二二〇〇mに達したので、今回の目的を達成した。
大焼砂分岐まで登ったところで強風とガスで視界が悪く、五名が引き返すことを希望した。



横長根分岐

当初は参加者の希望により、馬場の小路ルート、大焼砂ルートに分けることも予定していたが、悪天候により、今野支部長の指示で、十三名は全員、馬場の小路(通称ムーミン谷)ルートに向かった。

ガスの中にコマクサをはじめ多くの高山植物が我々に話しかけているようだ。やがて女岳への分岐を過ぎると馬の背への登りだ。

ここは六月はじめに、二日連日で滑落死亡事故が発生したところである。どうして滑落してしまったのか、現場を確認しながら登った。

阿弥陀池を過ぎると、男女岳から団体が下山してきたので、阿弥陀池小屋での混雑を避けるため、先に男女岳山頂を目指した。

今日は一日中ガスで何も見えない。記念撮影をして、直ちに下山。阿弥陀小屋は中二階も空いていて、ほぼ貸切状態であった。

進藤名誉顧問手作りの「ホタテの燻製」を頂く。いつもながら本当にうれしい。けさ早く、佐々木顧問が受け取りに寄って来たという事であった。

十三時五十分、昼食を済ませ、阿弥陀池小屋を出発。横岳經由でガスと強風の中を大焼砂、横長根とひたすら下山する。うっすらと陽が射し、周辺を見渡すことができたのも一瞬であった。

十六時二十分、登山口駐車場には先に下山していた五名が出迎えてくれて、全員無事に記念登山を終えることが出来た。

分岐から引き返した五名は、樹林帯を高山植物の勉強会をしながら、クルマユリ、ウゴアザミ、ウメバチソウ、それと横長根知らん草(?)をゆつくりと楽しみ、横長根の分岐で昼食。時折ガスの切れ間から、薄らと山並みが見えると、登山組はどうしているかなあ、晴れてくれればいいなあと思っていたとの事。

登山組を待ちながら、駐車場で座を組み、山情報やら世間話、近頃の世相と会話の時間を持つことが出来、とても楽しかったとの事。

参加者

・横長根・男女岳・横岳
 佐々木民秀 奥村清明 今野昌雄
 鎌田倫夫 佐藤 博 石川祐子
 安藤金栄 佐々木長秀 藤田正義
 澤田石一夫
 会員外 島田好雅 鈴木茂夫
 佐藤啓喜
 ・横長根
 福田光子 柳田勇悦 鈴木裕子
 会員外 柳田ルイ子 塚田もも子

太平山山開き登山に協力

六月八日(日)、太平山県立公園整備促進地域協議会による恒例の「太平山山開き登山」が行われた。秋田市からの一般参加者約三十三名、そのサポートとして協力。

どんよりとした曇り空であったが、登山道両脇に咲き乱れるヒメシヤガ、シラネアオイ等の花々やブナの緑が、参加者の目を楽しませてくれた。山頂にある奥宮社殿で安全登山の祈願。

大杯でお神酒が振る舞われた。参加者の一部に若干の遅れも見られたが全員無事に下山。

秋田支部参加者

佐々木民秀 三浦真六 堀井弘
 佐藤博 鎌田倫夫 安藤金栄
 鈴木裕子 石川祐子 福田光子
 長岡幸則 佐々木長秀 澤田石一夫



東北・北海道集會に参加して

今野昌雄

第三十回東北・北海道地区集會は平成二十六年七月七日(日)～八日(月)の二日間、福島県「ホテルリステル猪苗代集會会場」と「雄国沼登山・会津地方名所巡りの交流行事」のプログラムで行われた。

本部から森武昭会長、各支部から二十五名、地元福島支部二十二名、計四十八名の参加者であった。

七日(日)、午後一時から受付、二時三十分から支部長會議があり、自己紹介や次年度開催支部について話し合い、来年は北海道が五十周年であることから、記念事業の一つとして担当することになった。秋田支部の「東北、北海道地区集會メモ」によると、当支部は、平成十八年第二十三回(秋田駒ヶ岳・乳頭山)以降引き受けていないので、平成二十六年に担当することになった。

三時から地区集會が行われ、小林福島支部長の挨拶、森会長の祝辞と続き、祝辞の中で、第三十回とあるが、特別規約もなく、各支部長が今まで頑張ってきた貴重な珍しい集會であると称えていた。ちなみに第一回は、昭和五十七年に秋田支部が担当し、秋田駒ヶ岳に登っている。

三時三十分から、猪苗代山岳會前会長・江花俊和氏の「磐梯山あれこれ」の記念講演があり、磐梯山の概要、歴史、噴火活動、磐梯山の三角点復旧、ジオパーク等、資料に基づいてわかり

やすく解説された。

六時から懇親會、記念撮影、小林支部長歓迎挨拶、青森支部長の乾杯で始まり、西山北海道支部長の再度の乾杯が参加者を楽しませた。

會食、各支部紹介、中締め、次年度開催北海道支部への引き継ぎと、宴たけなわの中で閉會。八時からは希望者による二次會があり、さらに交流が深まった。

八日(月)、朝七時三十分、登山組はバスで登山口へ移動。秋田支部は二班の赤リボン隊のグループに所属し、八時三十分、雄子沢登山口から雄国沼へ。



班長と岩手、秋田の会員 (ニッコウキスゲの大群落)

高田雅雄案内人の樹木の説明も丁寧で、小雨も気にならず、雄国沼のニッコウキスゲの大群落と、足元のトキウウ、サワラン・ヒオウギアヤメ、ワタスゲ等々の花々に迎えられた。

尾瀬より素晴らしいニッコウキスゲの大群落と言われるものなるほどと思われた。次から次へと来る登山者やハイカーの一行に圧倒されながらも、ときおり薄日のさす天候の中、散策を楽しんだ。

バスは三時頃、ホテルリステルに到着した。その後、思い出に残る福島集會をあとに佐藤博委員、鈴木裕子事務局長の運転で帰秋した。

秋田支部参加者 今野昌雄
 福田光子 鈴木裕子 佐藤博

岩崎元郎さん講演會

七月初旬、アルパインツアー社から「岩崎元郎さんの健康登山 in 秋田」と題して講演會を開きたいので、秋田支部の主催、または特別後援をお願いしたいとの要望があった。

開催日の会場を押さえる関係もあり、早急の返答を、というところで、とりあえず、今野支部長、鈴木(裕)副支部長、佐々木顧問で相談した結果、特別後援とすることとし、詳細については、アルパインツアー社と打ち合わせを行い、役員会で協議することにした。開催予定日は十一月二十二日(土)、詳細については決まり次第お知らせいたします。

平成二十六年通常総会に出席して

支部長 今野昌雄

平成二十六年通常総会が六月二十一日午後二時から、東京・四谷の主婦会館プラザエフで開催された。

秋田支部からは佐々木長秀総務委員と私が出席した。

出席会員一三名、委任状提出三三三八名で、会員五一〇一名の過半数となり、総会は成立、総務担当高原三平常務理事の司会で進行した。

森武昭会長から、山の日祝日法案が国会で成立したこと、ユースクラブの強化、支部活性化、来年百十周年に当たり遠征への助成、記念式典と晩餐会を兼ねる、三百名山の出版、上高地山岳研修所の飲料水はこの秋の水道工事で安定する、今後の財政を考え、会員は六千人規模にしたい旨の挨拶があった。

議事に入り、第一号議案の平成二十五年事業報告を高原常務理事、第二号議案の二十五年決算報告を吉川正幸財務担当常務理事が説明。第三号議案の定款施行細則改正と挙手で承認された。

吉永英明監事から平成二十五年度監査報告があり、承認された。平成二十六年事業計画及び収支予算の件の報告があり、入会者の入会月により年会費を割引く制度も承認された。

質疑応答では、山研修繕費用の積立プロジェクトチームとワーキンググループの違い、都岳連をどんな意図で退会をしたか、百十周年記念事業と海外

遠征寄付の件、理事七十歳定年制と高齢者の権利等々について活発な質疑応答があった。

従来は二十六年事業計画、収支予算案についても総会で審議しなければならなかったが、新しい定款で「毎事業年度開始の日の前日までに、会長が作成し、理事会の承認を受けなければならぬ」とし「総会に報告を行う」と規定している。二十六年計画、予算案は三月十二日理事会で承認されている。

除籍対象者は六十九会員、二十四、二十五年の二年間会費滞納者が対象。全国三十二支部のうち信濃、秋田、山梨、熊本の四支部で支部長交代、新支部長が紹介され、大きな拍手があった。

総会の後、希望者による懇親会があり、交流を深め午後六時に解散した。

会員数情報

平成二十五年末

◎会員数

五〇五六名

名誉会員

一四名

永年会員

三二六名

終身会員

九一名

通常会員

四三六一名

青年会員・他

二六四名

秋田支部会員数

六十三名

(平成二十六年四月一日現在)

支部会員の動向

退会 佐藤栄治(二十六年五月)

行事参加報告

◎中央地区山岳協議会総会

六月二十七日午後六時三十分から、三吉神社齋館で開催。十一団体から十五名出席。当支部から佐々木(民)出席。事業・決算の報告や事業・予算案を審議し、其々承認。

二十五年の秋田県における遭難状況の資料が配布され、登山者の山岳事故よりも、圧倒的に山菜やキノコ採りの事故が多いこと等が報告された。続いての懇親会では各会の活動状況等報告。

太平山遭難救助協力を登録

中央地区山岳協議会の太平山遭難救助協力員として(二十六年・二十七年)秋田支部関係として、次の会員を登録しました。

佐々木民秀 鎌田倫夫 安藤金栄

柴田勲 今野昌雄 三浦眞六

堀井弘 鈴木裕子

他団体からの登録

若月寿 佐藤博 柳田勇悦
福田光子 長岡幸則 石川祐子
大橋忠雄 川口廣志

日本山岳会編

新版・日本三百名山

発行

日本山岳会創立百十周年記念事業の一つである、日本山岳会編「新版」日本三百名山」全三巻が発行された。

秋田支部執筆(員順)

乳頭山(烏帽子岳) 今野昌雄

秋田駒ヶ岳 今野昌雄

和賀岳 奥村清明

森吉山 奥村清明

太平山 佐々木民秀

神室山 奥村清明

平成二十六年七月三十一日 発行

初版第一刷発行 全三巻 山と溪谷社

B4版 各巻 一三〇〇円(税別)

支部会員

執筆図書紹介

新・分県登山ガイド

「秋田県」 佐々木民秀

平成二十六年七月五日 発行

初版第三刷発行 山と溪谷社

A5判 一九〇〇円(税別)